

## 平成22年度第1回公益事業振興補助事業審査・評価委員会 議事要旨

開催日時:平成22年10月27日(水) 13:00~15:40

開催場所:財団法人 JKA 4A・B会議室

出席者:大江守之、川戸恵子、小松隆二、栃本一三郎、西貝宏伸、原田宗彦、  
山岸秀雄(五十音順・敬称略)

\*小松氏が委員長就任。

事務局:笹部俊雄、竹内紀文、池田稔、平柳豊

### [審議結果]

- ・23年度補助方針(案)は、原案通り承認された。
- ・公示日については、事務局より説明(11月上旬から公示する旨を説明)。
- ・次回委員会の開催については、12月中下旬で調整。次回審議事項は、補助要  
望概要、査定方針、予算規模、担当割(主査・副査)を予定。

### [意見概要]

- ・文教・社会環境に、「引きこもり・犯罪被害者に関する支援活動」とあるが、  
ひきこもりには「不登校」も含まれるのか。
- ・文教・社会環境で、「豊かな自然と動物を大切にす活動」となっているが、  
ゆくゆくは植物も含め、「自然と生き物」という表現にしたらどうか。
- ・高齢者の項目には、「お年寄りが社会に参画する」という趣旨も含まれてい  
るのか。
- ・補助事業の採否後、不採用事業にも不採用の理由を相手側に明示するのか。
- ・ケイリンの強みはオリンピック種目であることから、ケイリンのブランドイメ  
ージを高めるための調査研究事業は補助対象となるのか。

- ・公益の補助メニューに「研究補助」加えたら、大学等が応募してくるのではないか。
- ・「体育」という語句を使用しているが、「体育」は学校の授業でしか使われていない言葉なので違和感がある。今後は「スポーツ」に変えたらどうか。
- ・事業費関係には上限金額の設定がないが、応募者が混乱することはないか。
- ・とりわけ福祉については、これからはNPOの時代。NPOが参加しやすい補助体系にしてもらいたい。
- ・社会は「脱施設」の方向に動こうとしているが、バックアップの制度が少ない。
- ・社会を動かすための補助の役割が必要ではないか。
- ・世の中がハードからソフトに流れているが、ソフトなメニューが少ないのではないか。
- ・新世紀未来創造プロジェクトは、初めての試みであるので、委員の意見を聴く必要があるのではないか。
- ・要望件数が少ないのは、補助事業のPRが不足しているのではないか。
- ・国の施策にない隙間の事業に限った補助を行っているため、PRが行き届いていない。情報公開を利用してアピールできるのではないか。

(意見は順不同)

\* 本議事要旨は、JKA事務局が作成